

【浜坂】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和6年8月27日(火) 18時30分～20時10分
- 2 場所 浜坂地区公民館
- 3 出席者 地区25名 市10名【危機管理部長（危機管理課）、福祉部長（地域福祉課）、市民生活部協働推進課】
- 4 テーマ ①自治会及び町内会等の地域コミュニティ活動について
②災害時の避難所開設について

5 概要

【地元あいさつ】

大勢の鳥取市職員にお集まりいただき感謝申し上げます。今日は、協働でまちをつくる方向で話を進めていきたい。

【協働推進課長あいさつ】

この懇談会については、地域で取り組みたいことや目標について地域住民の皆様と意見交換を行うことで住民の皆様の共通理解を深めていただくとともに、出たご意見を市政に反映し、市民と市による協働のまちづくりに繋げていくことを目的としている。本日は、時間の許す限り意見交換をさせていただきたい。

【危機管理部長あいさつ】

災害に対する対応等を順次進め、毎年充実をさせているところではあるが、災害に関する対応は終わりがなく、この時代に合ったような形での対応を毎年進ませているというような状況にある。今日は、皆様からのご意見をしっかりと受けとめ、これからも鳥取市における災害時の対応について更に進めていきたいのでよろしくお願いします。

【福祉部長あいさつ】

本日の意見交換の課題について、調べてみると、全国的にも同じような事例が出ており、なかなか難しい問題だと感じている。一気に良い案が出てくるというわけではないと思うが、意見交換でいろんな知恵をいただきながら考えていきたいのでよろしくお願いします。

テーマ「自治会及び町内会等の地域コミュニティ活動について」

【地元(説明)】

《テーマの背景・理由》

町内会の加入率の低下、自治会から脱会する町内会などがあり、今後の自治会町内会の活動に問題が出ている。加入しない理由、自治会からの脱会理由の多くは、任意ではあるが募金活動の労力、金銭的な負担などとなっている。

《地域の取り組み》

自治会から脱会する町内会には継続して自治会加入の話をしている。脱会された町内会が、再加入されるような話に進んでいないが、自治会としては継続して進めていくことにしている。また、浜坂地区は新しい団地・家が毎年のように増えてきている。新規団地には町内会設立へのアドバイスを行い、自治会の加入を促している。

《課題・質問》

任意ではあるが募金活動について、金額設定、目標金額をやめることはできないか。また、町内会への加入を促進する資料や情報などがないか伺いたい。

【地域福祉課】

募金活動の金額設定、目標については、地域福祉課で事務局を持っている、日本赤十字社についての話になるが、毎年度、お願いをするときに分区の説明会を行っている。その中で、各分区の目標額を設定させていただき、説明会の中でお示しをしている。本日の話を受け、日赤の募金に限っては、目標額を提示しないことも可能である。選択肢としては、全部の分区の目標額をお示ししないか、示すことを希望されない分区の目標額だけをお示ししないということもできるかと思う。一世帯当たりの目安等もお示しをしているので、ご相談させていただきながら対応させていただきたい。

その他の募金活動については、主催事務局の団体が違うので、例えば事務局を持っている社会福祉協議会にこのような意見があったということをお伝えすることは可能ではあるが、同じような対応がとれるかどうかはお返事ができない。

他の地区の状況については、日赤奉仕団の活動の中では、2地区が目標額を達成している。ただ、その2地区がどのように活動し、目標額を達成しているかの把握はできていない。

【協働推進課】

《加入者が増加した町内会の事例について資料に沿って説明》

◎根強い声かけと会員の負担軽減で加入率60%から100%へ

未加入者に対する根気強い声かけ、加入後の会員の負担軽減をすることで、加入者の増加に繋げていく取り組み。勧誘活動の中で、「回覧板が嫌だ」「役員の輪番制が嫌だ」といったことが未加入の理由として多かったため、回覧板を廃止し、みんなが利用するごみステーションに掲示板を設置。役員の輪番制も廃止し、役員はできる方や意欲のある方が担うことで役員の負担軽減を図る。

このような取り組みにより、60%程度だった加入率が100%に発展。ほとんどの方が加入していると勧誘をすることで、転入される方もスムーズに加入されている。

◎住民説明会や入居者説明会に立ち会い、町内会加入や地域づくりへの協力を呼びかけ

マンション世帯への取り組みとして、住民説明会で建設業者やオーナーへ地域づくりへの協力を求め、町内会の案内の配布や、入居者説明会で町内会のブースを出させてもらい勧誘を行って

いる。また、事業所が多い地域でもあり、事業所にも準会員として会費をいただき、一緒に地域づくりに取り組んでいただく、独身アパート住まいの方には、割安な会費を設定し、幅広い方に加入していただけるような工夫を行っている。

◎その他の取り組み

- ・情報発信や勧誘に力を入れ、未加入世帯を把握し、全戸訪問。未加入者を含めた全戸へ広報誌の配布を行う。
- ・役員の負担軽減を図るため、会長を2人置き、役割と責任を分担することで会長の負担軽減を図る。
- ・目的別にグループを作り、ボランティアを募ることで、地域の担い手が増え役員の負担軽減につながった。
- ・児童のいる未加入者を対象にしたイベントを開催。子育て世帯の新規加入に加え、子ども会の結成にもつながった。

【地元】

日赤の募金の件で、目標額を達成しない場合、弊害があるなどあれば聞きたい。

【地域福祉課】

募金していただいた額に対して10%がいわゆる事務費的に、各地区の活動費として還元されることになっている。目標額を達成されているところに関しては、超えた額のさらに10%を加算して還元しているというような制度がある。

【地元】

本来、一般の会社では、利益を上げて給料や退職金などになっているが、日赤の場合は会社組織ではないので、利益を求めるということはなく、このように募金という形で集められているのではないかと思う。

一つは、いろんな災害が起きたときに集める義援金があるが、義援金だと集めた金額がそのままその地域なりにいくが、募金だと、まず、どこに何がいっているのか。毎年、日赤は何百億の決算をしているが、募金がその方たちの報酬や退職金などに回っている可能性があるのではないか、極端に言うとその方たちの飲食にも回っているのではないかと思う。なぜ、募金をしてまで、飲食にまで出さないといけないのかとなりかねない。まして、募金という言葉だとまだ良いが、地区に目標額を設定されて、それぞれ町内会になると、負担金という形になっている。負担金になると任意ではなく、絶対にしないといけないということになってしまうので、負担金という形は絶対におかしい。まずは負担金という言葉はやめて、任意の募金活動にしてほしい。

【地域福祉課】

我々の立場としてはいわゆる負担金というような形で求めていることはない。それぞれの個人の意思に基づいてご協力をしていただいているというふうに考えている。ただ実際、他の地域でこういった問題があるようなところを見ると、町内会の会計の中でいくら納めるといったようなやり方をしておられるところがある。それについては、個人の任意のことであり、おかしいのではないかというようなことは当然のご指摘だと思う。

目標額自体を設定しないのかどうかについては、県支部からの話等もあり、鳥取市地域だけがどうするかを今すぐお答えできない部分もあるので、今後も県支部とも協議しながら対応について考えていきたい。

【地元】

こういう形になった経緯は、やはり役員の募金活動の負担というところがあるが、次年度からは元に戻して募金活動ということにしたい。

【地元】

まず、自治会に入っている人間だけが対象になっている。それ以外はどうするのかという話になるが、そこについてはどのように考えているか。

【地域福祉課】

ご指摘のとおり、このように自治会を通じて町内会にお願いすると、加入しておられる方だけになってしまうというのも事実で、当然、加入しておられない方に対しても呼びかけとかが必要だろうと思う。日赤の募金の活動支援については、市役所本庁舎には箱を置いて、募金をしていただけるようなやり方はしているので、そういった形をもっといろんな場所で増やしていったって、自治会だけではなく、いろんな形で賛同いただけるようなスタイルを考えていく必要があると思っている。

【地元】

町内会の活動に色々関わらせていただき、大多数の方は、町内会費の中で同時に収められる各種の募金が、年間10円や20円というわずかなことで、一人暮らしの年金生活とかそういう方でもない限り、負担になるような町内会費にはおそらくなっていないと思う。何百円を出すのが惜しいのではなく、募金という種類のものも町内会費で自動的に集めているシステムに納得がいけないというところが退会をされた大きな理由だったということを私なりの理解でお伝えしておく。そもそもが、会長や班長の負担を減らすためにお互いさまということを理解していただける前提のもとで何十年、町内会費の中に募金を含めてきたが、それが納得いけないという時代になっている。新規の町内に対して自治連で説明をしても、何のメリットがあるのかと、メリット・デメリットの話になってしまう。別に他人と関わらなくてよいという方々が増え、こうしたこと一つ一つに、自治会、町内会が直面しているということを実感として持って帰っていただきたい。

この間、役員内で、自治連というのは大多数の利益というのを考えなければいけないので、個々の意見を意見として伺っても、そこにばかり注目しては、みんなの利益になる、みんながつながれることはできないということを、いろんな意見を持つ方もわかっていただかないといけないと話をした。中には協力したくてもできない方や、いろんな事情の方が住んでいる町内会では、本当にいろんなことに直面している。どうしても件数が増えてきた中で、いろんな意見が出てきてしまうことも、私達、ボランティアで役員をやっている者は答えていけないといけない。これが現状であるということ、決してするのが嫌な人が増えているとか、そうではないということでご理解をいただきたい。

日赤の協力にしても、募金したお金がどういうことに役立ち、あるいは自分たちにも還元されるということを配りもので配るだけではなく、ときにはそういう話を聞かせていただくような機会をつくっていただけたら、理解していただけるのではないかと思います。自分たちがいざというときに助けられるということがわかるのと、いったい何に使われているのかというのでは違ってくると思うので、そういう機会も考えていただければと思う。

【地元】

町内会としては、各種、鳥取市からの依頼があり、実行するのは、一番末端の町内会になる。大きな納涼祭とかであれば委員会を開いて協力してもらえる人もいるが、平日や日中は動ける人がおらず、ほとんどの町内会がワンオペでやっている現状で、非常に繁忙を極めている。

日赤の募金でもそうだが、目標金額を設定されることについては、ある程度仕方がないとは思いますが、それを個人の募金とした場合は集めて回らないといけないので、結局手間が増える。かなりの負担だということを分かってほしい。以前、自治連にも言ったが、時代に合うように、削れるところは削り、本当に必要なものだけをやってほしい。

【地元】

入会の問題で仮住まいだから入らない、町内会費は払うから、役は外してくれという事例もあったが、それはおかしいのではないかと。町内会費を割引されるということもあったが、不公平になるので割引はできない。その辺はどのような考えなのか。ごみ捨て問題でも、町内会費の半分のもらって成功しているところがあるということだが、ごみを捨てたかったら掃除だけしてもらって、そんなのは町内会ではない。それを成功事例として挙げられるのはどうかと思う。

【協働推進課】

いろんな事情があって、なかなか町内会活動に参加できないとか、お金で解決できるなら何とかそれで治めてもらえないかといった町内会があると伺っている。先ほど参考事例で紹介したが、そういったニーズは多様化している。生活様式もコロナ禍を経ていろんな考え方も出てきている中、コミュニティ活動やまちづくりの意識を何とか繋ぎとめる、あるいは継続していくため

にいろんな選択肢を設けたり、役員の負担軽減を図ったりといった事例を紹介させていただいた。

町内会活動はそういうものではないというようなお話もあったが、なるべく皆様の負担が、過度に特定の方にかかってしまうことのないように、良いやり方を地域の中で話し合っていていただくということも大切ではないかと思っている。その中でその地域に合ったやり方を検討していただけたらと思う。

テーマ「災害時の避難所開設について」

【地元（説明）】

《テーマの背景・理由》

昨年の台風第7号のときに、一時避難所の浜坂地区公民館には近接の地区からも多くの避難者が来られ、駐車場もなく人もあふれ大混乱した。浜坂小学校に避難所が開設はできなかったのか。

《地域の取り組み》

自治会、自主防災会の活動として避難所開設訓練を昨年度実施した。各町内会、防災関係者と地域の住民、約100名が参加し浜坂小学校体育館で実施している。今年も実施する予定となっている。

《課題・質問》

一つ目に、今回の避難所開設に関して、問題点・反省点などを洗い出し、基準や体制を見直し、今後に備えることが必要ではないか。二つ目に、高齢者避難と避難所運営など早めの避難を行うために、避難情報など事例等を交えて教えてほしい。

【危機管理課】

昨年の台風の対応、避難所の開設がどういうことだったのかというのを話しながらそこでの問題点、また改善しようとして考えていることなどについて話をさせていただく。

まず8月15日の台風第7号については、浜坂地区公民館は、市内12ヶ所の自主避難所の一つとして、午前7時に開設を行った。その後、台風の影響による河川の増水や土砂災害の恐れなどが生じたところもあり、そういった状況に応じて、例えば美保南地区、佐治地区、河原地区といったところにレベル3の高齢者等避難や、レベル4の避難指示といった避難情報を順次出し、避難を促すとともにそれぞれの地区に避難所の開設を行った。ただ、そうしたところ、過去前例のないような雨に見舞われ、16時40分に市内全域に大雨特別警報が発表されることになり、大雨特別警報を受け、レベル5の緊急安全確保を発令し、市民の皆様に、今すぐ命を守る行動をとるよう、また高いところに避難するよう強く呼びかけを行った。

緊急安全確保というのは、市内全域で既に災害が発生しているとか、災害が切迫しているというような状況の情報で、こうした状況では避難所に向かうこと自体が危険を伴うため、当初はすぐに避難所の開設は行わないという判断だったが、浜坂地区の皆様にとっては、それまでの高齢

者等避難や避難指示といった情報が何もないところに、いきなり最高レベルの避難情報が出たというような形になり、防災無線などを聞き不安になった皆様が、地区公民館に多く逃げ込まれた形になったところだと思う。市としては、そのときはその状況を受け、その後、避難所の対応職員の確保や、施設の安全性の確認、また避難所に行くまでのルートの安全性の確保などができたところから各小学校を避難所として順次開設することとし、15日の夜になって浜坂小学校を避難所として開設したところではあるが、既に浜坂小学校に人が来ているというようなことで、結果的には後追いで開設した形となり、皆様に混乱を生じさせることになり、大変申し訳なかったと思っている。

昨年のこのことを受けた対応としては、問題だったのは、避難情報がどういう意味で、それに応じてとっていただく避難行動はどういったことが良いのか、そのタイミングはどうかというようなことを、まず市民の皆様に知っていただくことが重要であろうと、今は平時からの周知啓発に改めて力を入れている。具体的には情報発信の強化ということで、市報で特集ページを改めて掲載をしたり、防災ポータルサイトの整備や、地域での講習会、防災リーダーの研修等を通じて周知を図っている。

浜坂地区公民館がいっぱいになったら、すぐ小学校も開けるべきではないかということについては、まさにそのとおりで、そういったことがないように早めに小学校を避難所として開設できるように避難所との連絡も密にとっていきたいと思っている。また、今回の突然の緊急安全確保や、避難指示が発生する場合に避難所を開設する職員が間に合わないというようなことも多々あろうかと思う。自主防災会からの要望などもいただいております、そういったときにまずは地域の役員の方や自主防災会などの地域の方の判断で小学校を開けていただき、避難していただく場所を確保するようなことができるように地区公民館に小学校の校舎の鍵をお預けするというような取り組みも今年度から行われている。

避難所の運営などの話もあったが、時間がかかり避難所をすぐ引き継ぐことができず、自主防災会で運営されるようなことも生じてくると思う。浜坂地区でも訓練を実施されているということだが、当課に防災コーディネーターという専門の職員もいるので、ご相談いただきながら、より効果的な防災訓練をやっていただき、自主防災会の皆様と一緒に地域の防災力の向上ができたというふうに考えている。

高齢者等避難と避難所運営など、早めの避難を行うための避難情報などについては、市報などで啓発をしているが、現在、マイタイムラインの普及啓発を進めている。このマイタイムラインというのは、避難情報のどういった場合に自分がどういった行動をしたらよいかということを時系列でまとめて、計画として作っておくというようなものになる。作成に当たっては、まず自分の住んでいる地域や家のあるところがどういった災害のリスクがあるのかということを確認したり、避難する際にどういったことを注意したら良いか等、いろんなことを検討しないといけないと思うが、マイタイムラインを作成する過程でご家族や支援者の方等も含めてご検討いただき、実際に、災害時にすぐ行動をしていただけるような準備をしていただけたらというところで現在の研修会等でも進めている。

また、鳥取市防災アプリをスマホなどに入れていただくと、気象情報や避難情報などを見ることができ、プッシュ通知もあるので、これもぜひご活用いただきたい。防災アプリにもマイタイムラインの作成支援機能を追加するような準備もしているところで、このマイタイムラインも今後も引き続き進めていきたい。

【地元】

去年の台風の件だが、防災無線で避難の呼びかけをされ、何を言っているか分からないところがあったが、「逃げろ、逃げろ」だけははっきり聞こえていた。それを聞いて、結構怯えている人もいて、それなりの効果はあるのではないかなと思うので、避難勧告自体は賛成だった。やはり逃げない人たちもたくさんいるので、その人たちに喚起する意味では良いと思う。

先ほど言われたように、公民館が開設されたのが（午前）7時で、小学校が（午後）9時過ぎということで、みんなその時には公民館に逃げていて、本当に大混乱だった。館長も2度ほど教育委員会に電話をかけて、小学校の体育館を開けてくれないかお願いをした。その辺は、流れが悪いと思っていることで、その辺をきちんとしていただかないと、防災無線でいくら良いことをされても結果的にそれが大混乱につながるようでは何の意味もないかなと。その辺がきちんと対応できるということが一つ目のことだと思う。

防災無線で避難情報レベル5を出されたが、できれば小学校も公民館も一斉に準備ができる体制をとっていただいた時点で、防災無線で避難勧告をすればスムーズにいくのではないかなと思うので、前もって、どのレベルで開設するかということを作り、避難所を開設する、または防災無線で避難勧告をしていただくというようなことができるのであれば進めていただきたい。

去年初めて浜坂地区も避難所開設訓練を小学校の体育館を借りて行った。10月も11月も季節的にはいい感じだったが、やはりこの時期は暑い。避難されてきた方がいたときに、体育館は蒸し暑い戸を開けるわけにはいけないので、工業用の大きな扇風機とかでもあれば、避難された方の居心地が少しでも良いのではないかなと思うのでその辺も考えていただきたい。

また、学校用配置備蓄品を見ていて、本当にこれで足りるのかなと思うので、この辺ももう一回見直しをかけていただけたらと思う。今回、公民館に水と食料が届いたが、今、学校配置備蓄品には全く食料がないので、避難された方に水とか食べ物を持ってきてくれることはできないのかということと、今、防災備品の中に、5年食べられる食品とかがある。一遍にはなかなか買うことができないので、浜坂の自主防では、30食を5年かけて150食備蓄している。次の年には30食の賞味期限が過ぎるので、防災訓練で食べてもらい、また30食買っている。時間をかけて貯めていけば、ある程度の備蓄はできるし、それをするだけで高齢者や小さいお子さんとか、食料が今必要な方がおられると思うので、その辺も考えていただければと思う。

【地元】

高齢者のところで、マイタイムラインについて、どのように進めていこうとされているのかお聞きしたい。

もう1点、高齢者だけではなく、障がい者、医療的ケア児もあるが、その方々は避難が非常に困難な場合が多い。その方々にどう避難してもらうのか、福祉避難所は開設しないということがあるが、避難所に行ってから次に福祉避難所に行ってもらうのは本当に困難なことだと思う。その対応も考えていただきたい。

それからもう1点、避難所での障がい者に対する対応、例えば耳が聞こえない方、目が見えない方、言葉がしゃべられない方、それから外国の方、様々いる。そのような方も安心して避難所に来られるような対応はどう考えているのかお聞きしたい。

【危機管理課】

まず、マイタイムラインの進め方については、新しい取り組みで、まだマイタイムラインって何だろうというところからだと思う。いろんな防災リーダーの研修とかを通じてお伝えし、そこから地域の方に伝えていただいたり、また、広報でもマイタイムラインという言葉やこれがどういったものかというような周知啓発の方法も力を入れて、この言葉が浸透するようにしていきたい。

障がい者や高齢者の方の対応は、個別避難計画などで、主にその方の状態、どういった支援が必要かということ踏まえて、支援者の方と一緒に、災害時の対応について計画を作っていただくことをお願いしている。今、地域福祉課でも、福祉事業所を通じて、普段サービスを使っている方などに、個別避難計画の作成の声かけを行うという取り組みもしており、個別避難計画やマイタイムラインなど、災害時の対応でどう行動するかという準備を継続して続けていきたい。

避難所での障がい者の方の対応については、障がい者の特性やどういった支援が必要かといった障がいのある方の避難の手引きを、市の方で作成している。こういったものを、今、民生委員や各地区公民館にもお配りしているところではあるが、避難所の対応をする職員にも確認してもらい、実際に来られたときは障がいのある方一人ひとりの状況をお聞きしたりしながらその人に合った対応ができるようにしている。避難所でも通常の避難所の対応をする職員の他に、要支援者対策班という、支援が必要な方の対応をするような職員も配置するようにしており、支援が必要な方がいらっしゃったらその人のニーズをお聞きし、対応できるようにしている。一遍にたくさんの避難所を開いていくと、なかなか行き届かない部分もあると思うが、なるべくそういった対応をするようにしている。

備蓄の食料が充分ではないのではないかというお話もあったと思うが、保存期間とかの管理までできないということもあり、あまり食料を小学校に分散備蓄ということはしていない。災害時の対応としては、市役所の防災備蓄倉庫で水をかければ食べられるようなご飯や水等をたくさん備蓄しており、輸送班という担当職員が、必要に応じてお配りできるというようなことで、現在足りない状況でもいらっしゃる方の分は確保できるような対応をするようにしている。

環境改善などの話もおっしゃるとおりだと思う。小学校の体育館の冷暖房ということで順次進めているところで、なかなか一遍には難しいということがあり、大きなストーブや扇風機を市の

方で用意して持って行ったりということになるかと思うが、なかなかこの時期の体育館は厳しいので、なるべく涼しい校舎の方を使っていたり、学校の中でより良い環境のところを使っていたきながら、なるべく対応できるようにさせていただきたいと思っている。

【危機管理課】

備蓄品について、ご心配をいただいている。各地に全てのものが揃っていれば良いが、そういうわけにもならない部分もある。学校は本来の学校の役割もあるので、それだけで場所を占めてということにはならない。必要なものを本庁の防災備蓄倉庫から持って行くというのが基本で、緊急にいるものを近くの小学校に置かせていただいているのが基本的な考えになる。

何とか市としてもお願いをしたいのは、防災マップの65ページに、備蓄非常持ち出し品について掲載している。市がなかなか持って行けないという状況があるかもしれないということも考えて、非常備蓄品として、例えば家庭の中で3日間分くらいは何とか確保いただき、持ち出しをしていただけないだろうかというようなお願いをさせていただいている。何をどういうふうに準備したら良いかというのが書いてあるので、ぜひ参考にさせていただきたい。

避難所の開設については、おっしゃるとおりで準備ができてから放送をかけて、それから逃げるというのが一番スムーズである。予想される場合には、そういった形でやっているが、去年の8月15日はいきなりのことだった。実は气象台から直接、どこで何が起きているか分からない、災害が発生しているかもしれないという大雨特別警報が、鳥取市の全てのエリアに出され、それを受けて鳥取市としては、避難所を開設して、それを待つというような形がとれなかった。今にでも命を守る行動をとっていただきたいというようなことで呼びかけをさせていただいたのが、レベル5（緊急避難情報）というもので、実はこれは、避難所に逃げてくださいというような情報ではなく、命を守る行動ということになる。例えば、浸水とかが懸念されるところで、1階の辺までで収まるだろうというところは、2階に上がってもらって過ごすとか、そういったことが命を守る行動になる。自分のところはどうかということを、あらかじめ調べておいていただく、あるいは話し合いをしておくということが必要かと思う。

防災マップの44ページが浜坂のエリアになる。白になっているところというのは雨で浸水するということがないところだと考えていただいて構わないかと思う。本来は、色のついているところの方々がどこに逃げていくのかということになるので、だとすると低い方に行くよりも、こちらの白いエリアにいらっしゃる方は、まずは安全ではないだろうかということを考えていただいてもよいかもしれない。ただ、お宅によって事情は違い、低いところに立っているものもあれば高いところに建っているものもあるので、それぞれが確認をしていただき、自分の家だったらどういう行動をしようかということを、皆様にはぜひ事前に話し合っていたいただきたいと思う。

学校の鍵の話もしたが、鳥取市としても皆様の声を聞いた中で、何とか対応していかないといけないというようなものを少しずつ整理したり、制度として確立をしているところなので、今日いただいたご意見も、改めて吟味しながらできることがないか考える一助にさせていただきたい。

【地元】

自主防災会の活動として、訓練や、研修の大切さを伝え、自分でそれなりに、宣伝をしているが、数町内会しか依頼がない。どうしたら良いのかと考えたときに、最初のテーマの「コミュニティ」そういうものも関係してくると思う。このコミュニティがとれないことには、はっきり言って避難所もまともにできない。意識がない者に、避難をするように言っても、どうすればよいか、自分がどういう立場でいるのかが分かっていない。それを教えようと思って訓練をしようと言っても、自分の町内会ならまだしも、他の町内会ではなかなかできない。

自主防災の活性化をするためにどんなことをやっていこうかというときに、参加率が大きな悩みになっている。大きな津波があったところや、研修や防災訓練を徹底的にやったところは人命が守れている。自主防災の活性化と言えば神戸で、一度痛い目に遭っていると自分たちで自分たちの命を守らないと共助はない。自分が助かる力がないといけない。正しい知識、認識を持つということが大切で、ラジオでも危機管理課の方に言っている。あれも一つの方法で、ラジオを聴く方は、ちゃんとそれでそういう意識を少しずつ受けていかないとけない。

防災リーダーや指導員だけではとても追いつかないので、新たな視点を持って他の方法も考えていただきたい。大規模災害のときは、市の職員が来て避難所の指揮がとれるかといってもそうはいかない。浜坂地区では手探りの状態だし、手話通訳の方が必要になることもあるだろうし、いろんな小さいことがある。小さいことだが大切なことなので、そういうことを提案していくし、それに対して答えていただけるように努力していただければと思う。協力をお願いしたい。

【危機管理課】

本当に、地域活動の中の防災に関する部分というのは核なる部分だと思っている。その中でコミュニティの大切さも本当に大切だと思う。やはり、どのように地域をつくっていくのか、つながりをつくっていくのかというのは、みんなで考えるこれからの課題だと思う。その中でも、防災に関する活動というのは、それに踏み出すきっかけになるものだと思うので、私どもでどういったきっかけづくりができるのか、あるいはこういうきっかけをつくったので協力をお願いしたいというようなことがあれば、ぜひお聞かせいただき、一緒になって取り組んでいきたいので、今後ともよろしくをお願いしたい。

【協働推進課長あいさつ】

長時間にわたり、様々なご意見、ご提案をいただいた。この懇談会で終わりというものではなく、皆様が住み慣れた地域で安心して心豊かに暮らしていけるスタートにしていきたいと思っている。本日いただいたご意見、ご提案は持ち帰り、しっかり市政へ反映していきたいと考えている。